

木場満行寺への学童疎開 (七)

昭和五十六年、疎開児童と地元同窓生が三十七年ぶりの再会を果たす。

昭和二十年当時、五年生だった五十嵐芳男さんたちは、昭和五十六年、当時の疎開学童らといっしょに同級会を開こうと企画した。そして「三年生から六年生まで全員同窓会」ということであれば「と



満行寺住職らと団んで37年ぶりに満行寺を訪れた疎開学童ら

仁、鈴木勝、小嶋偉子、小島正子さんら五人が代表として黒埼町へ来た。地元からは五十嵐芳男、渡辺富雄、黒川サチ子さんが出席し、緒立の橋本屋で打ち合わせ会を開いた。打ち合わせの結果、三年生から六年生まで希望者全員による同窓会を行うことを正式に決めた。そして、卒業式に出席するため帰京し、東京大空襲に遭って亡くなった六年生田中久子さんら十数名の三十七回忌法要を併せて行うことになった。

◆再会 昭和五十六年十月十八日、戦時中の疎開学童と地元同窓生の再会が遂に実現した。五十六年十月二十日付けの新潟日報の

見出しに大きく「あの顔だ！覚えてるよ／37年ぶり、抱き合って」そして、その時の様子が次のように記されている。「マイクロバスを降りたとき、覚えのある顔を見つけた女性同士が駆け寄って『ワッ』と抱き合ってた。三十七年ぶりの再会。……『あまり変わっていないね』よく覚えてるよ」と三十七年の歳月を振り返って話の花が咲いた。……」

疎開学童のうち消息がわかった人は二十人で、そのうち女性四人、男性六人の十人がこの日、木場へ訪れたのである。地元からは、当時の五年生二十九人を中心に、各学年からも参加し六十三人が出迎えた。対面後すぐに満行寺本堂で戦災で亡くなった友の冥福を祈って三十七回忌法要が営まれた。そして、その夜は町内の料理屋(木場の「勇吉」)で懇親会が開かれ、さらに大きく思い出話がふくらんだ。東

京から来た十人は、その夜、三十七年ぶりに黒埼町での一夜を過ごした。この日の交歓会の模様はNHKテレビでも放映された。疎開児童たちにとって、満行寺の山門、寺の本堂、走り回った樹木の繁る境内、ざこ寝したおくりの部屋、寒い冬の夜をガス火にあたたかた台所、学用品などを整理して置いた裏室などみななつかしい数々の思い出があった。ことに裏室の、持ち物を整理していた棚は今も当時のままに残っていた。棚には〇学年〇〇と墨で名前が記されていたが、長い年月によって消えてしまったり、判読できないものもある。交歓会に出席した人たちは、消え残った名札の中に自分の名前がないかと真剣に探した。満行寺での交歓会には地元一般の人たちも大勢集り、かつての疎開児童たちを温かく迎えた。そして、この交歓会の後も、当日出席できなかった人たちが次々に満行寺を訪れ、寺の人たちや当時関係のあった人たちとの旧交を暖めている。 執筆・宮田栄門

今のうちにお年寄りの話を記録に

「黒埼町の今昔」執筆者の宮田栄門さんに聞く

「黒埼町の今昔」の連載が始まったのがちょうど八年前の昭和五十七年六月十五日号です。それがこの号でちょうど一〇〇回を迎えました。そこで、執筆者の宮田栄門さんに「黒埼町の今昔」連載のきっかけ、今後の計画などについてインタビューしました。

最初に「黒埼町の今昔」を連載されるようになったきっかけをお伺いします。

宮田 この連載を始める前の年(昭和五十六年)に「大野町の今昔」という本を出しました。それがこの広報くろさきに取り上げられたのですが、そのころ大野だけでなく黒埼全体の昔についていろいろと調べていくうちに、それを町民の皆さんに知っていただくというところで投稿したのが始まりです。



「大野町の今昔」

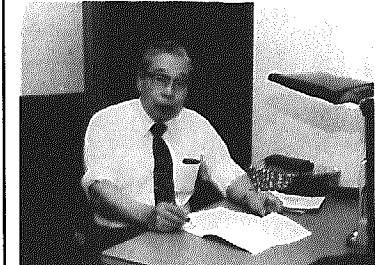
「これまで『黒埼町の今昔』で取り上げたテーマのうちで特に印象深かったことは、宮田 昭和五十八年に掲載した第三次女子勤労挺身隊のときは、あとでテレビの取材も受けましたし、特に印象に残

黒埼町の今昔100回タイトル総覧

連載八年、一〇〇回の歩みをふりかえる

「黒埼町の今昔」の連載も八年、一〇〇回を迎えました。そこで、これまでどのようなことを取り上げてきたか、一〇〇回分のタイトルを以下に掲げます。掲載は、タイトル、掲載号の順。(掲載号のあとに三桁の数字は通し号数です)

- 「守り学級」と落第：57年7月15日号212
- 戦争なんこ子供部隊 黒鳥方面に行軍：57年8月1日号213
- 明治後期 子供たちの小遣いと買物：57年9月1日号215
- 明治後期 子供たちの学校生活：57年9月15日号216
- 月1日号217 (2回連載)
- 帝都を救え：57年10月15日号218
- 12月1日号221 (4回連載)
- (関東大震災と黒埼とのかわりについての記録)
- 高等科女子生徒 パンツのはき始め：57年12月15日号222
- 大野小学校高等科 金巻聞念寺へ通った高等科一期生：58年1月1日号223
- 幻の善久・山田飛行場：58年1月15日号224
- 2月15日号225 (3回連載)
- 山田・善久合併史：58年4月1日号229
- 6月1日号233 (5回連載)
- 電車線路架設反対闘争：58年6月15日号234
- 7月1日号235 (2回連載)
- 第三次女子勤労挺身隊：58年7月15日号236
- 8月15日号238 (3回連載)
- 冠・婚・葬・祭：58年9月1日号239
- 12月号243 (5回連載)
- 風習行事：59年1月号244
- 5月号248 (5回連載)
- 明治29年の大水害 横田初れ：59年9月号252
- 幻の旧信濃川：59年10月号252
- 60年7月号262 (9回連載)
- (59年12月号は休載)
- 黒埼村勤労報国隊：60年8月号263
- 10月号265 (3回連載)
- 木場 惣二郎さんの私設測候所：60年11月号266
- 明治十二年の柳作大洪水：60年12月号267
- 61年1月号268 (2回連載)
- 柳作部活史：61年2月号269 (3月号は休載)
- 「越後三茶山吉家伝記之写」にみる越後木場城：61年4月号271 (5月号は休載)
- 江戸時代の文教政策：61年6月号273 (7月号は休載)
- トマト作りこと始め：61年8月号275
- 木場青年会柔道部：61年9月号276
- 明治二十九年の中蒲原郡大水害：61年10月号277
- 緒立温泉を訪ねる：61年11月号278
- 62年3月号282 (5回連載)
- 黒埼町の風呂屋：63年9月号291
- 63年8月号299 (8回連載)
- (5月号は休載)
- 黒埼町の風呂屋：63年9月号300
- 平成元年8月号311 (12回連載)
- 大野小唄の今昔：平成元年9月号312
- 10月号313 (2回連載)
- 木場小唄の発掘：平成元年11月号314
- 12月号315 (2回連載)
- 木場満行寺への学童疎開：2年1月号316
- 7月号322 (7回連載)
- 61年4月号の「越後木場城」は町史編さん課青木宏課長が執筆。
- ※「黒埼町の今昔」と題されていないが、「黒埼町の今昔」連載直前の57年6月1日号に「桜井弥六の石像を福島県で発見する」58年3月1日号に「町制施行10周年として『女子勤労挺身隊』59年8月号に「町史編さんスタート」として「江戸時代の名宮大工若林本蔵」がそれぞれ宮田さんの執筆で掲載されている。



宮田さん(自宅で)

「以前から昔の生活などに興味があったのですか。宮田 昭和五十四、五五年ころ、諏訪町の自治会長になって諏訪町の昔を調べ始めるまで、それほど興味があったわけではありません。文章を書くのは昔から好きでしたが、とにかく最初は昔の諏訪町の様子を記録に残しておこうと図面を作ったのです。それを当時の大野小学校長・渡辺忠夫さんに見せたら「生きた教材になる」と言われ、さらに年寄りの話の聞き書きをまとめておくという貴重な資料になりましたよ、とアドバイスされました。それがきっかけで、昔のことを調べるようになったわけですね。調べていくうちに、ほとんど調べたいことが広がって黒埼町全体の昔のことを調べるようになりました。――「これまで『黒埼町の今昔』で取り上げたテーマのうちで特に印象深かったことは、宮田 昭和五十八年に掲載した第三次女子勤労挺身隊のときは、あとでテレビの取材も受けましたし、特に印象に残